

主催：東京外国語大学 大学院国際日本学研究院 (CAAS ユニット)
共催：東京外国語大学 総合文化研究所



シンポジウム

都市と憂愁

——大正時代の文学と文化

モダン都市のなかで孤独と憂愁を抱えつつ、個人として生き始めた人びと。
〈現代〉の起点ともいえる大正時代の文学と文化を考察する

2019年1月24日（木）15：00～18：00

於 アゴラ・グローバル3F プロジェクトスペース

（府中キャンパス）

登壇者：

ス・セゴン（韓国外国語大学）

「萩原朔太郎と大正モダニズム」

スティーブン・ドッド（ロンドン大学 SOAS）

「日本の政治運動としてのモダニズム

——梶井基次郎の場合」

柴田勝二（東京外国語大学）

「美と生命の間——谷崎潤一郎の二面性」

司会：友常勉（東京外国語大学）

発表言語：日本語
入場無料／申込不要



お問合せ：東京外国語大学 国際日本学研究院 CAAS ユニット
TEL 042-330-5829 caas_admin@tufs.ac.jp